

十年一昔 (その十六)

中台農村協同館界限

中台十字路一右に往けば芝一和三十年頃地元青年が出荷山の仁王尊、左に往けば松尾組合を作ったその集荷場に使用して来ました。この青年達は需用と供給のバランスを採るために東京卸売市場や近在の青果市場の視察を行なった時に担当係員や専門家を招いて話し合いをする等いろいろ研究を重ねました。運営に ついても集荷、検査、発送等 総て自分達の手で行ない、生産品も従来の野菜類だけでなく、速成栽培、抑制栽培へと 発展させました。中でも注目されるのは蕨等山菜類の出荷 されます。この地方ではさ程珍 らしくない蕨も東京方面では 季節の味と喜ばれ、思ったよ



り高価で売れましたので子供さんやお年寄りには格好な小遣稼ぎにもなりグループ活動の資金にもなったのです。また出荷品の評判を落さないための検査や責任が大切であることから標案を貼ることも覚えたのです。その成果として東京市場でも中台の西瓜という取引値段も変わった程でした。元々この地域には農業改良普及所が指導する四日クラブという青年のグループがあり各自が父兄から一アールの耕作権をもらって試験圃場使用したり採れた作物の売上をグループの資金にす

等最近話題となっている父子契約栽培の走りと言ってもいいと思われる様なことを既に十数年も前に実行していたのです。その青年達が中心になって結成したのがこの出荷組合で、満ち足りて満足どころか農業生産に対する意欲は沸々として煮えだぎっていったということになります。

この組合も昭和三十四年に横芝町園芸組合連合会として町一本に統合し、また家の手伝的な立場にいた当時の青年の方々もそろそろ一家の柱となったり、人柄を買われて他町村に養子に迎えられる等のこともあり、青年達の出荷組

合から次第に大人の出荷組合へと大きく発展したのです。しかし、中台地区の当時の青年が培った農業生産活動は今でも立派に根を張っています。特に連作を嫌う西瓜の苗を夕顔に接木する研究は果菜としての西瓜ばかりでなく、接木苗の産地としてその販売をするまでになっています。

昭和四十四年、十数年前の青年達が活動した出荷組合の後に建てられた農村協同館の附属倉庫の前に立ちますと片手で額の汗を拭いながら古びた台秤の分論を確かしたり出荷品の西瓜等を検査する若い人達の姿が走馬灯の様

相続税と贈与税

他人(親族を含む)から財産を贈与された場合、通常四十万円をこえれば贈与税が課税されますが婚姻期間二十五年以上の夫婦で、贈与財産が居住用の土地、家屋等の場合四十万円のほかに配偶者控除として百六十万円が控除され

配偶者控除の改正が行なわれました。それによると、婚姻期間十五年をこえる一年ごと

内容になりました。(相続に際して受け取る生命保険金も相続財産として扱われ、法定相続人一人あたり百

(死亡後三年以内に確定する退職金についても、相続財産として扱われ、法定相続人一人あたり五十万円まで非課税とされていましたが、この非課税限度額が八十万円に引き上げられました。

交通安全にと

二万円寄付

上塚の伊藤さん

交通安全に役立てて下さいと町に二万円が届けられました。その篤志家は、上塚宮前の伊藤繁治さんです。伊藤さんは今年四月に中学に入学をした子供さんのお父さんで子供達が八キロもある県道を毎日自転車通学することに非常に危険を感じ、何とかこの子供達を交通事故から救って

ほしいと町に寄付を申し出たものです。町ではこの心温まる厚意に対し良い策はないかと中学校に相談したところ、学校で生徒の交通安全に役立たせたいと云うことで子供達の安全教育資料の購入に当ててもらおうことにしました。

役場へ提出することになっていきます。これは現在あなたがお持ちの国民年金証書には今年の四月分までの支払額しか記入されていません。この届けによって、今年の五月分から来年の四月分までの一年間福祉年金が受けられるか、どうかを決める大切な届けです。尚、この届出は五月六日以降に役場住民課で受付を行っておりませんが、五月分の支払いを受けてから届けて下さ

相続税

(贈与税の配偶者控除の改正と同じく相続税についても、

福祉年金の所得状況届

福祉年金を受けている人は毎年五月に、国民年金証書を